～フロア会議の改善～

現在も世界的に流行している新型コロナウィルスの発生により、施設内での取り組みの形も感染予防の観点から、大きく変革の時期を迎えた。三密を避けるために施設内でも、職員同士の接触も最小限にとどめるなどの施策が取り入れられた。

フロア会議も同様で、開催の許可は下りていたが、実際会議を開催してみて、会議自体の在り方について、今一度考え直す良い機会となった。

　（現在の会議の分析）

会議のメリット

　①参加者同士が顔を合わせてコミュニケーションが取れるため、発言・意見の真意が伝わりやすい

　②口頭でのやり取りは文章よりも情報が早くできる

　③お互いの顔を見て話し合うので結束が固まりやすい

会議のデメリット

　①意見がでないことが多いと、一方的な会議になりやすい

　②時間内に実施できない場合は、時間外での会議となってしまい、職員の負担が大きい

　③場所の確保や資料作成などに時間を要する

今までの会議では、日勤終了後の17：30からの開催が主で、休日の職員の参加がないと、参加者が全体の半数をきるような状態もあり、課題の周知や評価が一部分的になりがちであった。また、活発な意見交換もあまり見られず、定例の会議としてマンネリしていることが多かった。

そこで、時間外の会議の縮小と会議の効率化を図る為にどうすれば良いか、リーダー会議で検討することにした。

方法としては、定例のフロア会議をなくし、毎月小グループ内での意見聴収と評価を実施することと、業務時間内に小グループもしくは、数名で話し合いを行い、日常の業務の負担や改善案などを共有するようにした。また、状況に合わせて、MeLL+で意見交換を行う。

毎月15日前後に小グループのリーダー（主任・副主任・リーダー）がメンバー（中堅と新人の3名程度のメンバー）に議題課題の聴収と、先月の議題の評価を行い、評価欄に打ち込む。

全グループの打ち込みが終わった時点で、課題や評価を主任・副主任で評価し、必要に応じて、リーダー会議、フロア会議の開催を決定する。

（経過と考察）

８月に検討し、９月より実施を行ってみると、協議事項や報告事項が各グループから抽出することが出来たが、全体での協議を要する内容はなかった為、現在は、必要時のリーダー会議のみ実施している。フロア会議は実施しておらず、業務内で発生している問題については、基本的には、その日、その場で解決するようにしている。また、11月の意見で残業について、意見を聴収する場面があったが、Mell＋を使用する事で全体の意見が効率よく収集できた。

しかし、課題面も沢山出てきた。改めてメンバーを召集し意見交換する場面がなかなか作れない。

　メンバー以外の人との情報共有が出来ない。（意見として共有できるが、そこまでのプロセスなどが見えない）文章だけでの伝達なので、伝わりにくいなど、改善が必要な課題は多く見られた。

　まだ、取り組んで経過が浅いが、年間を通じてこの取り組みを行い、職員に負担が少なく、かつ効率的で有効な会議方法を模索し、活用していければと思う。

～クラブ活動の取り組み～

6月よりクラブ活動が開始され、2階では「創作」「園芸」「学習」「リラクゼーション」を行う事となった。初めて行う事も多く企画を計画していく事は難しかったが、円滑に進めるうえでも以前より編成していたグループ毎にクラブを割り振る事とした。創作グループには創作クラブ、外出グループには園芸クラブ、イベントグループにはリラクゼーションクラブを割り当て、学習クラブは総括者が行う事とした。

発足時は準備段階としグループ毎に意見を出し合い企画を立て実施した。初めは手探りな部分が多く職員本位で動いてしまう事があり、どうすれば利用者本位で企画を行えるかや教養娯楽費としての物品の購入のありかた等で苦悩する部分あり改善する点は多くみられた。毎月企画を計画するうえでクラブ毎に話し合いを行い、話し合いは以前よりグループ毎で行っていた事もあり比較的円滑に行う事ができ、クラブ活動でもその点を生かす事ができた。その成果もあり各クラブ毎にメンバー間での情報共有ができており徐々に改善するところは改善でき、個々のアイデアを出し合える環境ができた事で新しい取り組みの検討も行えている。

現在創作クラブでは参加されている利用者とどのような作品を作るかや作業工程のアイデアを出し合い話し合って各利用者に適した作業を検討し提供をしている。利用者の意見を取り入れる事でクラブ活動に意欲を持って積極的に参加をされるようになり、良い影響になっている。

園芸クラブでは季節に合わせた花を生けたり、プランターを使用し野菜や花を育てており、参加される利用者は昔から花や野菜を育てておられた方が多くクラブに参加される事で昔のことを思い出して思い出話をされたり、花や野菜の育て方を教えて下さったりされ、とても活気あふれる表情をし取り組んでおられる。冬になるにつれて育てられる野菜や花の種類は減ってしまうが、季節ごとの植物に触れてもらい季節を感じてもらえるように検討をしていく。

リラクゼーションクラブでは主に手浴や足浴を提供しリラックスしてもらえる場を提供している。足浴が出来ない方もおられる為、今後は整容を取り入れたり個々の物品を購入する等を検討しリラクゼーション以外の時間にも関わりが持てる環境をつくれる様話し合いを行っている。

学習クラブでは参加利用者に個別に聞き取りを行い、塗り絵以外にも花や船等の図鑑や、小説、計算や漢字のドリル等本人の意向に沿った物を購入することで普段から意欲的に取り組まれるようになり、空いた時間があれば自ら進んで取り組んでおられる事も多くなった。今後も個別性を大切にして取り組んでいきたい。

毎月活動写真を撮影しているが、どの利用者もとても良い表情をされており以前より活気も満ちている。このようにクラブ活動が始まった頃に比べ利用者が望まれる活動を提供出来るようになってきているが、どのクラブでもまだまだ改善点が多く業務に支障をきたしてしまうことも事実である。今後利用者、職員ともに無理なく充実して行えるようにも、クラブのメンバーだけでなく、全職員が意見やアイデアを出し合える様な環境をつくりより良い活動を行っていきたい。